

(様式2-2)

令和6年度「校内サポートルーム(KSR)研究指定校事業」成果報告書

1 指定校・指定校群 高松市立中央小学校

2 実施の内容

- ・ 教室への入室及び登校に困り感がある児童を対象に、気分を落ち着けたり、安心したりできる居場所として、『ほほえみルーム』を活用した。児童の教室復帰を目指しリハーサル場としたり、セイフティーネットとしての役割を果たしたりすることを目的とした。
- ・ 年度当初に、職員会議を通じて「ほほえみルーム運用計画書」を全職員に配布し、運用内容や活動の目的などについて共通理解した。また、毎月の生徒指導委員会で、ほほえみルームの活用状況や児童の様子を情報交換し、全職員の連携を図った。
- ・ 学習だけでなく、心の安定を図るために体を休めたり、教職員・学級の友達・カウンセラー等とふれあったりして、児童がリラックスできる場とした。
- ・ 時間割にほほえみルーム担当時間を位置付け、児童が来室した時には必ずかわる教師が在室するようにした。
- ・ 活動内容や教材等は、担任が準備し、個人ファイル等で示し、国語科、算数科等の学習、ドリルの他、書写、図工科等の作品作りも可とした。
- ・ 登校を確認した職員は、職員室に「日付と〇とイニシャル」を付け、担任に伝える。児童は職員室へ、難しい場合は保健室へ姿を見せることで、登校できたことを知らせた。
- ・ ほほえみルームから、教室へ移動した場合は、担任が職員室へ伝え、確認した職員が、職員室の「日付と〇とイニシャル」を消すことで、全職員が来校・在室を確認できるようにした。(再び、ほほえみルームに来室した場合も同様にする。)
- ・ ほほえみルームの利用にあたっては、管理職もまじえて、保護者と面談の上、決定する。
- ・ 「ほほえみファイル」を用意し、担当時間の児童の様子を記録し、次の時間の教員との引継ぎができるようにし、登校・下校時刻、活動内容、気になったことを記入して共有するようにした。

ほほえみルームの運用について

1 目的 教室への入室及び登校に困り感がある児童を対象に、気分を落ち着けたり、安心したりできる居場所として、『ほほえみルーム』を活用した。

2 運用 児童(保護者)が入室する際は、担任が職員室に「日付と〇とイニシャル」を付け、担任に伝える。児童は職員室へ、難しい場合は保健室へ姿を見せることで、登校できたことを知らせた。

3 運用 児童(保護者)が入室する際は、担任が職員室に「日付と〇とイニシャル」を付け、担任に伝える。児童は職員室へ、難しい場合は保健室へ姿を見せることで、登校できたことを知らせた。

4 運用 児童(保護者)が入室する際は、担任が職員室に「日付と〇とイニシャル」を付け、担任に伝える。児童は職員室へ、難しい場合は保健室へ姿を見せることで、登校できたことを知らせた。

5 運用 児童(保護者)が入室する際は、担任が職員室に「日付と〇とイニシャル」を付け、担任に伝える。児童は職員室へ、難しい場合は保健室へ姿を見せることで、登校できたことを知らせた。

6 運用 児童(保護者)が入室する際は、担任が職員室に「日付と〇とイニシャル」を付け、担任に伝える。児童は職員室へ、難しい場合は保健室へ姿を見せることで、登校できたことを知らせた。

【ほほえみルーム運用計画書】

今日のほほえみルームの様子【9月1日～24日】

日付	氏名	利用時間	活動内容	担当教員
9/1		10:00～10:30	読書	佐藤先生
9/2		10:00～10:30	読書	佐藤先生
9/3		10:00～10:30	読書	佐藤先生
9/4		10:00～10:30	読書	佐藤先生
9/5		10:00～10:30	読書	佐藤先生
9/6		10:00～10:30	読書	佐藤先生
9/7		10:00～10:30	読書	佐藤先生
9/8		10:00～10:30	読書	佐藤先生
9/9		10:00～10:30	読書	佐藤先生
9/10		10:00～10:30	読書	佐藤先生
9/11		10:00～10:30	読書	佐藤先生
9/12		10:00～10:30	読書	佐藤先生
9/13		10:00～10:30	読書	佐藤先生
9/14		10:00～10:30	読書	佐藤先生
9/15		10:00～10:30	読書	佐藤先生
9/16		10:00～10:30	読書	佐藤先生
9/17		10:00～10:30	読書	佐藤先生
9/18		10:00～10:30	読書	佐藤先生
9/19		10:00～10:30	読書	佐藤先生
9/20		10:00～10:30	読書	佐藤先生
9/21		10:00～10:30	読書	佐藤先生
9/22		10:00～10:30	読書	佐藤先生
9/23		10:00～10:30	読書	佐藤先生
9/24		10:00～10:30	読書	佐藤先生

【生徒指導委員会ででの報告書】



【給食の様子】



【遊びの様子】



【ほほえみルームの様子】

3 成果

(1) 校内サポートルームにおける児童の様子

- ・ 児童がほぼえみルームを利用するときにはその時間担当教員が必ずいるので、児童は安心して教室で過ごすことができていた。また、多くの教員とふれあう機会となっており、顔見知りになるにつれ、コミュニケーションの取り方も上手になり、多様な人間関係を形成することができていた。
- ・ その日の児童のコンディションに合わせて、学習活動に集中し教科書の内容やドリルを進める時間にしたり、教員との会話やゲームなどを楽しんだりする姿が見られた。
- ・ スクールカウンセラー（以下 SC）やスクールソーシャルワーカー（以下 SSW）が教室を訪れ、児童の様子を見て会話をするだけでなく、児童によっては、自分から相談をしたいと申し出て教育相談を行うこともあった。児童は、話を聞いてもらえて気持ちが落ち着いたと喜んでいて。
- ・ 3年児童と4年児童はサポートルームを活用し、休養したり、コミュニケーションを積み重ねたりすることで、少しずつ自分から学級へ行き、参加できる授業や友達とのかかわりが増えてきた。5年児童は、サポートルームを居場所として、登校できる日が増えてきた。

(2) 校内サポートルームにおける活動及び支援の工夫

- ・ SCやSSWと連携し、対象児童と、特別支援教育専任コーディネーターやSCもしくはSSWが日常会話や教育相談を行い、人間関係を築いていった。児童が少しずつ自分の状況や気持ちを話すようになるなど、小さな変化をSCやSSWと職員間で情報共有をしていった。
- ・ 各曜日の校時ごとに運営に関わる教員を配置することで、児童のその時の状態に合わせて、いつでもサポートルームが利用できるようにした。そうすることで、児童が気持ちを楽にしてサポートルームを自分の居場所として利用できた。
- ・ 月1回の生徒指導委員会で、サポートルームを利用している児童の様子や変容を知らせることで、全教職員への共通理解が図れるようになった。
- ・ 保健室に、毎日朝の会から1校時にかけて学校生活支援員を配置し、養護教諭と特別支援教育コーディネーターと協力して、学校に来たものの廊下で行き渋る児童に対応できるようにした。笑顔で対応したり、保健室で一息ついてから教室に上られるようにしたりすることで、少しずつではあるが児童が教室へ入りやすくなった。
- ・ 児童がリラックスできるように、必要なものだけをそろえて開放的にしたり、机や椅子だけでなく畳の空間を設置してくつろいで交流したりできるように、教室環境を改善した。そうすることで、友達や教職員と一緒にゲームや工作をしたり、給食を食べながら会話を楽しんだりして、安心して過ごすことができた。

(3) 総括

- ・ サポートルームがあることで、児童が安心して登校できるようになったり、サポートルームで充電し、コミュニケーションを積み重ねたりすることで、教室に復帰することができたりした。そのような児童の変化は、かかわる教職員にとって大きな喜びとなっている。今後も、児童の一人一人の状況に応じて工夫しながら、サポートルームを活用していきたい。
- ・ サポートルームを新たに利用する児童がいるときなど、その児童にどのようにかかわればよいのかが分からないという声が聞こえることがあった。職員会議や終礼等で共通理解を図るとともに、学級担任が児童のその日の状況や支援内容を伝えることで、適切な支援ができるようにしていきたい。